

ふくい経済トピックス（家計編②）

前月に引き続き、家計消費支出の変化を項目別に紹介していく。

〈都市ガスからオール電化へ〉

「住宅」の設備修繕・維持では、「給排水関係工事費」が大幅に増加し、「光熱・水道」では、「電気代」の中で「夜間電力」が大幅な増加となっている。「都市ガス」の減少と合わせてみると、夜間電力を活用した給湯システムの導入を含んだオール電化住宅への改造が進みつつあることが窺われる。

また、「家具・家事用品」では、「冷蔵庫」や「洗濯機」、「エアコン」の買い替えが増加し、「上下水道料」も減少していることから、省電力・節水といったエコと日常的な経費節減を目指す姿が顕著になってきている。

一方で、全体の電気代は増加しており、省電力機器の導入だけでなく、電力需給が厳しい現状では、使い方の工夫によるエコなライフスタイルが望まれる。

品 目 分 類	一人当り消費金額(円)	県内消費市場(百万円)
住居	49,278	39,742
・ 家賃地代	16,291	13,138
・ 設備修繕・維持	32,987	26,603
光熱・水道	89,184	71,924
家具・家事用品	38,060	30,694
・ 家庭用耐久財	13,012	10,494
・ 室内装備・装飾品	2,183	1,761
・ 寝具類	2,573	2,075
・ 家事雑貨	7,314	5,898
・ 家事用消耗品	7,970	6,427
・ 家事サービス	5,007	4,038

〈収入減で洋服を我慢〉

「被服及び履物」では、32,293円（18.0%）と大幅な減少となっている。「洋服」では、13,959円（21.4%）と大幅な減少となり、「学校制服」や「婦人用シャツ」、「婦人靴」などの一部を除き、ほとんどの項目で減少している。関連サービスでは、「洗濯代」が2,539円（20.6%）減少する中で、「被服レンタル料」は大幅に増加している。「女性用品は不況に強い」とよく言われるが、「化粧品」を含め価格に敏感になっていることが窺われる。

「交通・通信」では、「ガソリン代」が14,765円（19.2%）と大幅に増加し、「携帯電話通信料」も21,443円（23.6%）増加している。

「保健医療」では、「診療代」や「入院料」が増加し、「教育」では、「高校」、「大学」の授業料が増加するなど、この医療と教育で63,994円も支出が増加している。

品 目 分 類	一人当り消費金額(円)	県内消費市場(百万円)
被服及び履物	44,222	35,664
・ 和服	784	632
・ 洋服	15,479	12,483
男子用洋服	4,368	3,522
婦人用洋服	8,757	7,063
子供用洋服	2,354	1,898
・ シャツ・セーター類	9,696	7,820
男子用シャツ・セーター類	3,005	2,424
婦人用シャツ・セーター類	5,904	4,762
子供用シャツ・セーター類	787	634
・ 下着類	4,452	3,590
・ 履物類	5,718	4,611
・ 被服関連サービス	3,701	2,985
保健医療	54,859	44,242
・ 医薬品	5,888	4,748
・ 健康保持用摂取品	4,302	3,469
・ 保健医療用品・器具	8,657	6,982
眼鏡	2,548	2,055
・ 保健医療サービス	36,012	29,043
交通・通信	149,203	120,328
・ 交通	11,070	8,928
・ 自動車等関係費	89,634	72,287
・ 通信	48,499	39,113

〈園芸よりペット〉

「教養娯楽」では、地デジ対応のテレビ購入が増加し、テレビの大型化に合わせたブルーレイ方式のビデオデッキも併せて購入されている。健康志向を反映してか、スポーツ用品の支出が増加し、テレビゲームやソフト代は若干の減少となった。ペットブームにより「ペット用品」や「動物病院代」が増加する一方で「園芸用品」が減少している。

「新聞」、「週刊誌」、「書籍」とともに減少し、「ケーブルテレビ受信料」や「インターネット接続料」が増加するなど、教養や娯楽でもデジタルコンテンツへと変化している。

品 目 分 類	一人当り消費金額(円)	県内消費市場(百万円)
教育	42,320	34,130
・ 授業料等	35,236	28,417
・ 教科書・学習参考教材	651	525
・ 補習教育	6,433	5,188
教養娯楽	109,294	88,142
・ 教養娯楽用耐久財	12,083	9,745
テレビ	5,151	4,154
パーソナルコンピュータ	3,037	2,450
・ 教養娯楽用品	23,867	19,248
運動用具類	4,242	3,421
ペットフード	1,475	1,189
動物病院代	1,039	838
他の愛がん動物・同用品	1,497	1,207
園芸品・同用品	2,548	2,055
・ 書籍・他の印刷物	14,329	11,556
・ 教養娯楽サービス	59,015	47,594
宿泊料	6,082	4,905
パック旅行費	12,340	9,952
月謝類	9,434	7,608
インターネット接続料	7,101	5,727

〈掛け捨て型保険が増加〉

「その他の消費支出」では、「理美容サービス」、「理美容品」とともに減少し、「冠婚葬祭」関連支出や「交際費」、「仕送り金」も減少している。

品 目 分 類	一人当り消費金額(円)	県内消費市場(百万円)
その他の消費支出	286,525	231,074
・ 諸雑費	89,907	72,507
理美容サービス	11,028	8,894
理美容用品	14,741	11,888
身の回り用品	5,987	4,828
・ こづかい(使途不明)	108,164	87,231
・ 交際費	61,490	49,590
・ 仕送り金	26,964	21,745

一方で、「非貯蓄型保険料」が 8,043 円（9.7%）と大幅に増加し、「保育所費用」や「介護サービス」も増加している。

〈県内の家計消費は 1 兆円〉

この家計調査結果から福井県全体の家計消費額を算出したのが、表 1 で、住宅購入や積立型保険などを除く家計消費は、年間 9,275 億円と約 1 兆円に上っている。

県内の家計消費市場は、「食料」2,316 億円、「住宅設備修繕」266 億円、「家具・家事用品」307 億円、「被服及び履物」357 億円、「保健医療」442 億円、「自動車関係費」723 億円、「教養娯楽」881 億円、「理美容サービス」89 億円、「理美容用品」119 億円と、それぞれの分野で見れば大きな市場となっているが、収入増減や社会環境変化により、消費行動は変動していく。

これらの消費行動や意識の変化を敏感に受け止め、自社の商品やサービスを対応させていくマーケティング活動が、各企業で求められている。

（福井商工会議所所報 平成 23 年 9 月号掲載）